



	10月				11月			
	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)
今年	27.8	22.1	24.8	166.5	22.9	19.8	16.6	85.0
平年	27.4	22.3	24.7	179.1	23.0	18.0	20.5	172.5
平年との差	+0.4	-0.2	+0.1	-12.6	-0.1	+1.8	-3.9	-87.5

### 操業を迎えるにあたり

生和糖業株式会社喜界工場  
工場長 松門 弘法

昨年同時期にご挨拶をさせていただきましたが、就任一年が経過しました。昨年はその前に続きキビの作柄、最低を更新するという結果となりました。今期は11月1日の生育調査の結果、不作年を除く平年並み近くまで回復しているとの事です。Bxは若干平年を下回るものの、生産量82,200トン（黒糖分含む）、工場搬入・圧搾量は81,000トンと見込まれています。3年ぶりの年内操業開始で元気を貰ったところだと思います。然し、残念な事に私たち砂糖に関わるものにとっては大変心配なTPPの問題があります。7月の交渉参加前には「重要5品目の死守」「要求が通らねば撤退もあり得る」等と言ってきましたが、秘密裏のうちに年内決着ありきで進められていたようです。どうやら年内妥結は断念せざるを得ない状況のようですが、関税率の高い米・麦などはすでに検討に入っているとも報じられており、外国産の原料糖との価格差に対する調整金を主な財源とする交付金の確保が困難となり、生産者や製糖工場への交付金制度も厳しくなってくるものと思われます。このような厳しい環境の中でも、私たちは関係する全ての皆さんと一致協力し、この喜界島の経済を守り、島そのものを守る為最大限の努力をしていきたいと思ひます。又、安全に十分注意をして今操業を無事に進めていきたいと思ひますので、協力よろしくお願ひいたします。

### 今期の製糖は12月17日から始まります

今期のキビ予約が11月11日から11月19日にかけて行われ、全集落聞き取りを終了しました。2年続きの不作から関係各機関の協力を得ながら生産回復に向け取り組んできた結果、今期は夏季の台風直撃も避けられました。又、国の補助事業の薬剤無償配布及びメイチュウ発生予察による適期防除の効果もあり、後期の生育は概ね順調で生産量の回復が見込まれます。11月1日現在の島別の生産見込量は下記の通りです。

#### ◆◆◆◆ 平成25年産さとうきび生産見込み ◆◆◆◆

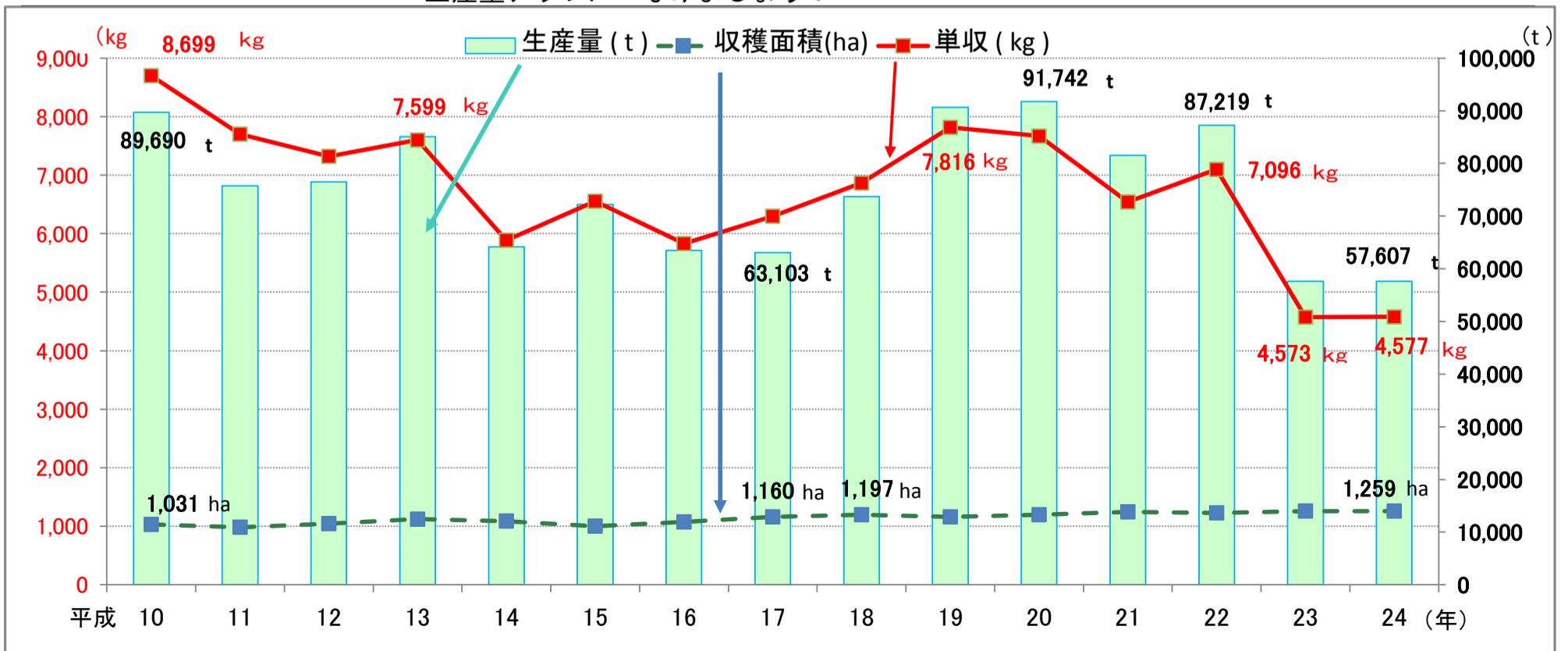
島別前年比較 ※見込みは各島、黒糖分を含む、喜界島の黒糖分は1,200t。 (平成25年11月1日現在)

項目	25年産見込み				24年産実績			差			率		
	収穫面積 (ha)	10a当り収量 (kg)	生産量 (t)	ほ場Bx (度)	収穫面積 (ha)	10a当り収量 (kg)	生産量 (t)	収穫面積 (ha)	10a当り収量 (kg)	生産量 (t)	収穫面積 (%)	10a当り収量 (%)	生産量 (%)
喜界島	1,277	6,437	82,200	15.55	1,273	4,576	58,245	4	1,861	23,955	100	141	141
種子島	2,709	6,427	174,103	15.99	2,788	5,537	154,359	# ##	890	19,744	97	116	113
大島本島	569	4,130	23,500	15.20	604	2,758	16,658	# ##	1,372	6,842	94	150	141
徳之島	3,201	4,867	155,793	16.10	3,496	3,619	126,504	# ###	1,248	29,289	92	135	123
沖永良部島	1,206	4,235	51,069	16.17	1,313	4,089	53,700	# ###	146	△2,631	92	104	95
与論島	414	3,544	14,663	12.54	489	4,387	21,451	# ##	△ 843	△6,788	85	81	68

### ～ 生産量推移 ～

(生和糖業(株)実績)

過去15年の収穫面積等の推移です。収穫面積は平成18年頃から株出栽培技術向上の対策として株揃え等の取組を強化したことにより微増しました。10a当りの単収は平成23、24年は19年と比較すると約40%の減となりました。適期の圃場管理をしっかり行い単収向上で生産量アップにつなげましょう！



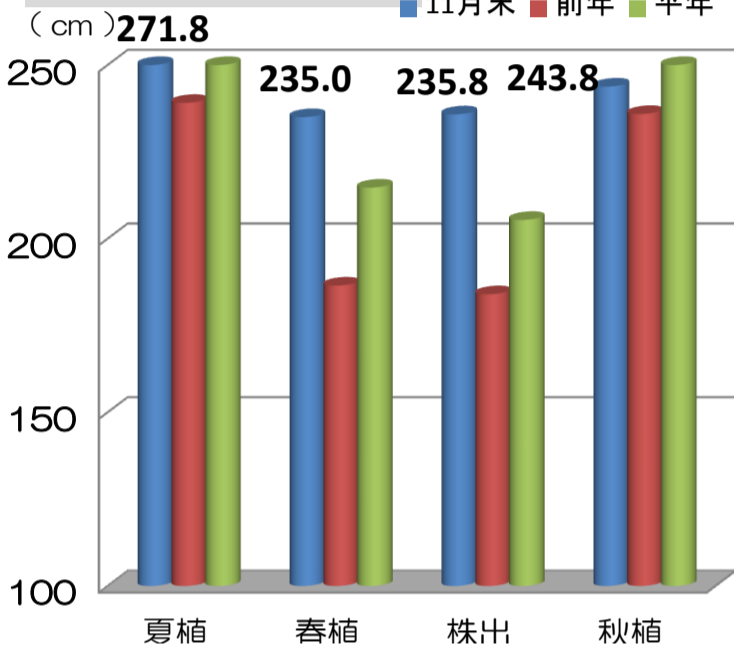
# さとうきび生育状況

今期は台風が31個と相次いで発生しましたが直撃を免れました。生育や品質も順調のようです。Bxも平年と比較すると、同等に推移しています。11月末の調査結果は下記のとおりです。

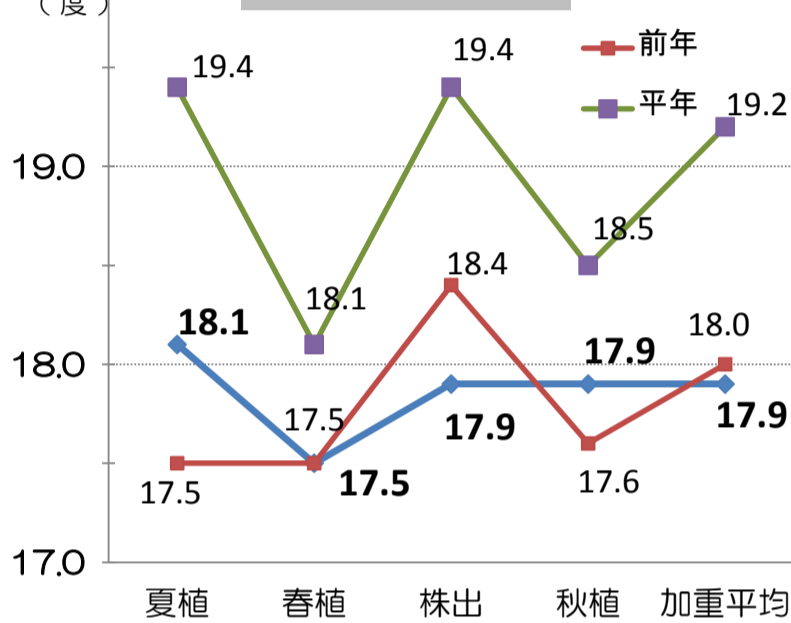
△	夏植	春植	株出	秋植	
11月末	271.8	235.0	235.8	243.8	
前年	239.1	186.5	184.0	235.9	
差	+32.7	+48.5	+51.8	+7.9	
▽	平年	271.2	214.7	205.4	256.8
差	+0.6	+20.3	+30.4	-13.0	

△	夏植	春植	株出	秋植	加重平均	
11月末	18.1	17.5	17.9	17.9	17.9	
Bx	前年	17.5	17.5	18.4	17.6	18.0
NiF 8	差	+0.6	+0.0	-0.5	+0.3	-0.1
▽	平年	19.4	18.1	19.4	18.5	19.2
差	-1.3	-0.6	-1.5	-0.6	-1.3	

茎長比較 (11月末)



Bx比較 (11月末)



## お知らせ

一芽苗の配布を  
来春も継続します

一苗代 (1本15円) -

内訳  
生産者 5円  
補助 (生和) 5円  
// (町) 5円  
計 15円

申込みの詳細は、後日  
ご案内いたします。

喜界町さとうきび  
生産対策協議会

### 農家直撃インタビュー No. 1

#### 私のキビ作り

赤連  
折田久男さん

12月上旬、穏やかな小春日和の日、川嶺の圃場で中耕作業中の折田さんに、直撃インタビューをしました。

平成12年にハーベスタを導入し、収穫作業は夫婦と補助員の3人で、管理作業は主に一人でやってらっしゃるそうです。

「前期は収穫作業が3月で終了したので、春植や株出圃場の管理が早めのできたので良かった。農家としては次年度の生産管理が早めに着手でき製糖終了は早い方が望ましい・・・。従来は夏植中心であったが、春植で効率的な経営、株移行しやすいこともあり、今後も春植は拡大したい。」と語っていました。又、大きな故障でなければ多少は修理も自前で行い、補植機を試作したこともあるそうです。ミニトラクターを2台保有し、株揃え・施肥用と中耕用に分け、地域の方への無償の貸出も呼びかけていらっしゃる大らかな方です。

「株出補植には、株起しする畑を荒く耕起し、その株出苗で補植している。一芽苗よりも遅発茎は、根も十分に張り丈夫であるので土に活着しやすいし、又苗面積の減少もない。キビ作りは定年が無く、自身のペースで作業が出来、ストレスも感じず、健康である限り働いていきたい。今後は高価な機械導入は、組織で購入して貸し出したり、機械メーカーもキビの圧搾や原料の製造工程をみてもらい、収穫機械などの改良、改善することも必要だ」と、前向きに熱く語っていらっしゃいました。

貴重な時間を惜しまず笑顔で対応して下さい、ありがとうございました。



中耕 (夏植) 12月5日

#### さとうきび増産に向けた株出管理ポイント

収穫面積の約6割を占める株出は、管理をしっかり行えば生産量が増収します！

- 1 収穫後の早めの残渣 (ハカマ等) の処理  
ハカマ等が腐葉土になりやすく、日光を遮るため萌芽が悪くなる。
- 2 根切り及び中耕  
中耕により通気性が良くなり根の数が多く張り、肥料の吸収が促進される。
- 3 中耕の後で早期の除草剤を散布  
雑草が成長してしまい、除草剤の規定量を超えると葉が枯れるなどさとうきびの成長が阻害される。
- 4 収穫時に踏圧された土壌を柔らかくする  
重い機械が圃場に入り土壌が固くなり根が発育が阻害されるのでサブソイラー、プラソイヤーやプラウなどで土を柔らかくする。

#### 編集後記

師走に入り製糖期を控え何かと気ぜわしい時期、あちこちでスポーツ大会や講座の集大成に入っている。★過日、町民が受講している公民館講座の閉校式を覗いた。日常見る中高年が、背筋を伸ばし軽やかにダンスを楽しむ、高らかに歌う唄や民謡、詩吟、三味線・・・半年間の学習した成果の発表の場に、老若男女が積極的に参加している姿に、感嘆した。第一線を退き、社会との繋がり、趣味の開拓や異年齢との交流・・・各々の目的で楽しんでいる。★高齢者人口が多く占める昨今、生涯学び心がけや姿勢はいつになっても持ち合わせ、身体的にも脳年齢的にも健康を保ち、若くありたいものである。

